宮崎「橋の日」実行委員会 活動25周年記念

第25回　宮崎「橋の日」イベント写真報告

橋の日

平成23年は、活動25周年の節目の年。「橋の日」イベントには戸敷宮崎市長を始め、国土交通省宮崎河川国道事務所大脇所長からもご挨拶いただきました。
8月19日（金）には、宮崎市民プラザ オルブライトホールにて「橋を通じた地域づくりシンポジウム」を開催。地域づくりへの具体的な活動への取り組みや課題について報告がなされた。また、初代橘橋を架けた福島邦成邸の移築保存運動にも協力しました。

「橋」への感謝を込めて献花

天満橋～橘橋を巡る清掃活動

5つの観測点で温度が「２℃」下がった打ち水

笑顔いっぱい♪

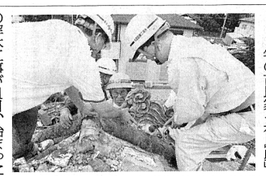
福島邸移築保存へ

6月26日（日）福島邸見学会を開催。
パネル展や福島邦成の紙芝居を実演。
前日150名+当日793名、
合計943名の参加者。
名残を惜しむ声が
沢山聞かれました。

紙芝居

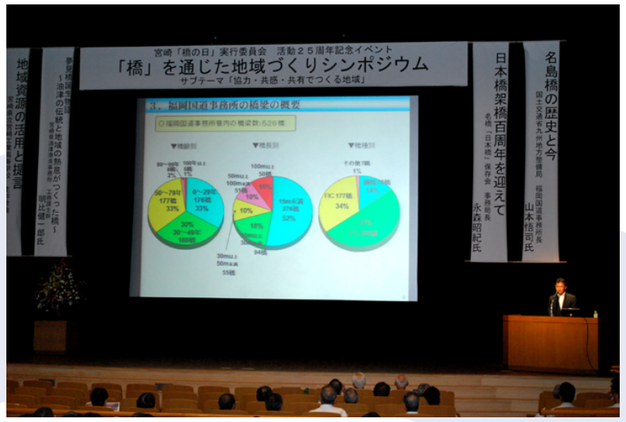
雨の中にも係わらずたくさんの方々が来場

古民家「福島邸」解体工事始まる　宮崎市



一部の移築保存が決まった宮崎市中村西1丁目にある築300年の古民家「福島邸」の解体工事が21日、始まった＝写真。着工式には、保存に向けて奔走した関係者や親族ら12人が出席。地区の「歴史遺産」の最後を見守った。
着工式では、建築業者や保存を求めてきた市民有志らが屋根上に登り、西側の鬼瓦を丁寧に取り外して家主の福島順一さん（82）に手渡した。福島さんは「（解体が）惜しいという気持ちはある。しかし、一部でも保存が可能になったのは、有志の方の支えのおかげ。感謝してもしきれない」と話した。
今後は屋根や移築しない部分を先行して解体し、9月中に家屋を現在の場所から撤去する見込み。来年6月までに南側隣地への移築を目指すという。
福島邸は1717（享保2）年に建てられたとされる。管理の負担などを理由に取り壊しが決まっていたが、6月の見学会で解体を惜しむ声が多かったことなどから、一部が移築保存されるよう見直された。

宮崎日日新聞
2011.8.22



橋を通じた地域づくりシンポジウム開催

「橋を通じた地域づくりシンポジウム」が19日、320名の参加者を迎え盛会のうちに終了。
東京の「日本橋」は、石橋として架橋100周年。福岡の「名島橋」は、昨年喜寿（77歳）。
「夢見橋」のある日南市は、今年から「橋の日」をスタート。
そして地元「橘橋」は初代橘橋を架けた福島邦成の居宅であった築300年の福島邸の移築が決まったばかりと、各講演者ともタイムリーな話題でした。

◎ 橋の日実行委 25周年シンポ

宮崎「橋の日」実行委員会（日高孝会長）は、活動25周年を記念して「橋を通じた地域づくりシンポジウム」を宮崎市の市民プラザでこのほど開いた。
名橋「日本橋」保存会（東京都）の永森昭紀事務局長が「日本橋架橋100周年を迎えて」と題し講演。同橋では春、秋に祭りが開かれ、夏には1600人が参加する大規模な清掃活動が行われるなど住民の地域活動の拠点になっていることを説明。そのほか、名島橋（福岡市）、夢見橋（日南市）を通した地域づくりについての話もあった。
日高会長は「橋との触れ合いを通し地域への思いを深める運動がさらに広がるよう活動を展開したい」と話した。

2011.8.26　宮崎日日新聞社にて掲載